別紙４

事　業　内　容

※別紙４は全体で10～15枚程度としてください。青字は削除してください。

必要に応じてグラフ、図表等を用いていただいて構いません。過度に文字サイズや行間を変更しないでください（基本はMS明朝１２ポイント、行間デフォルト値（１行））

テーマ名：別記様式「国ﾌﾟﾛで申請予定のﾃｰﾏ名」と同一（４０文字以内）

１　研究開発の背景これまでの取り組み　　※ １ は合計で２ページ以内

１（１）研究開発の背景

・自社の沿革（申請内容に関連する内容のみ）

・自社既存製品のシェア、成長率、競合他社の状況

・川下企業が抱える課題やニーズ

・市場ニーズの変化 （例：デジタル化）

・法律や制度改正　 （例：インボイス・電子帳簿保存法）

・業界の動向　　　 （例：リードタイムの短縮化を求められている）

・業界全体の技術課題　　（例：核融合発電方式はまだ実用化されない）

・技術以外の課題 （例：採用難、人材育成、事業承継、働き方改革）

※申請企業における技術的な課題については、「２（３）国プロにおける研究開発の課題と目標」に記入してください。

１（２）研究開発における申請者のこれまでの取り組みや関連技術（ノウハウ含む）

本研究に関連する「国プロF/S事業」申請時点での、これまでの研究開発（または製品開発）の技術力等、申請者の強みについて記入してください。

　　※申請企業の強みのうち、申請内容に関連する内容のみを簡潔に記入してく

ださい。

　　　・関連技術のこれまでの取り組み内容と現時点の到達点

　　　・関連製品の販売実績

　　　・過去の採択結果、論文掲載実績、知財関係（取得済み特許等）など

２　国プロの概要と研究開発目標

２（１）国プロに申請予定の事業と国プロ選定理由・成果の概要

①国プロ申請予定事業の概要、②選んだ国プロ名とその理由、

③国プロが終了した時点で想定される成果　について、新規性（新しい価値の創出等）・革新性（ビジネス変革等）を中心に記入してください。

※記入例

　①国プロに申請予定の事業の概要

　　　例）テーマ名：高温高圧下で動作する電子ﾃﾞﾊﾞｲｽの耐久性向上に関す

る研究開発

　　　　　　　概　　要：高温高圧下で動作できる電子ﾃﾞﾊﾞｲｽ素材の開発とその

耐久性について評価を行い、▲▲用ﾃﾞﾊﾞｲｽを開発する。

　②選んだ国プロとその理由

　　　例）国プロ名：成長型中小企業等研究開発支援事業

　　　　　　高温高圧下での試験に３年間、1.5億円の資金が必要となる。

　　　　　　Go-Tech事業は３年度で最大１億円であり、また当社の実施内容が「ものづくり高度化指針」の○○に該当するため、当方の目的と補助金の趣旨が合致する。

③国プロが終了した時点で想定される成果

例）これまで搭載不可能だった▲▲の内部にも搭載可能であり、○○

業界の製品のトレーサビリティの向上に寄与できる。

※新技術の詳細は２（３）「国プロにおける研究開発の課題と目標」に、

事業化の詳細は「４ 研究開発の事業化計画」に記入するため、ここで

は、新規性（新しい価値の創出等）・革新性（ビジネス変革等）の要点

のみ記入してください。

２（２）国プロF/S事業で実施する取り組み

２（１）の国プロに申請するために、「国プロF/S事業」で実施する取り組み（予備試験、連携体組成、ニーズ調査等）の内容とスケジュールについて記入してください。

※記入する際のポイント

　まずは以下の観点で、実施内容を整理してください。

　「これまでの取り組みや関連技術」・・・(a)　　　　　　 1(2)に記入済

「国プロF/S事業で実施する取り組み」・・・(b)　　　　 2(2)に記入

「国プロで実施予定の取り組み」・・・(c)　　　　　　　 2(3)(4)に記入

　その上で、ここでは「国プロF/S事業で実施する取り組み」について、記入してください。

※審査上のポイント

(a)(b)(c)の記入の仕方によっては、以下のように審査員が判断する可能性がありますので、留意して記入してください。

　　(a)が少ない　→前提となる技術的知見を有していないため、アイディアのみの「思いつき」で国プロジェクトを目指しているのではないか。

(b)が少ない　→すでに国プロに申請できる準備状況（予備試験済み、連携体組成済み）にあるのであれば、あえて、「国プロF/S事業」に申請せず、すぐに国プロに応募すればよいのではないか。

(c)が少ない　→もし、「国プロF/S事業」で実施する内容のみで事業が完結するのであれば、そもそも本事業の公募趣旨と異なっている。国、県、ISICO等が実施している、事業化までを補助対象とする別の補助金に申請すべきではないのか。

　※記入例

　　　①通常時の通信性能測定

　　　　　国プロでは、高温高圧下にも耐えうる電子デバイスを開発するが

　　　　　予備データとして、数種類の素材をつかった常温常圧時のデータを取

得する。　　　　　　　実施時期：令和●年●月

　　　②高温高圧下での耐久性評価手法の検討

　　　　　JISやISOの規格にない評価となるため、本事業で評価手法を検討する。　　　　　　　　　実施時期：令和●年●月～令和●年●月

　　　③川下メーカーの獲得

　　　　　現時点で、具体的な川下メーカーと接点がなく、本F/S事業で展示会

出展やサンプル提供することで川下メーカーの獲得を目指す。

　　　　　　　　　　　実施時期：令和●年●月～令和●年●月

■項目２（３）～(４)　は、「国プロF/S事業」の取り組みが終了し、国プロジェクトの申請書に実際に記入するイメージで記入してください。

２（３）国プロにおける研究開発の課題と目標

研究開発の目標を、“従来” や“国プロF/S事業終了時点”の課題（性能面や価格面等）と比較し、数字を用いながら具体的に記入してください。また、研究開発前後での技術等の違いやその新規性・独創性ならびに革新性がわかるように、文中に下のような比較表を用いて記入してください。

※２（１）において、「技術的以外」の新規性・革新性は記入しているため、

ここでは、「技術的な新規性・革新性」を中心に記入してください。

　　※目標については「数値」を用いて説明することを強く推奨します。

　　※従来技術の数値のうち、「国プロF/S事業」で取得予定の数値については、「国プロF/S事業」で得られる「期待値」を記入することも可能です。

　　※事業化や販売の目標は、「４　研究開発の事業化計画」に記入してください。

|  |
| --- |
| **課題①について** |
| （例）超高温超高圧時の耐久性確保  ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| 各時点における具体的な目標 |
| A:従来の技術  高圧（40MPa）で電子デバイスが損傷せず通信可能  B:国プロF/S事業終了後の技術  高温（100℃※）、高圧（40MPa）で電子デバイスが損傷せず通信可能  　※高温については、国プロF/S事業で確認予定  C:研究開発後（最終目標）の新技術  超高温（250℃）、超高圧（80MPa）で電子デバイスが損傷せず通信可能 |

* “A:現在の技術”と “B:国プロF/S事業終了後の技術”が同様の場合もそれぞれ記入し、国プロF/S事業での進捗予定内容などを記載してください。

（課題②以降についても適宜表を追加ください。）

２（４）研究開発目標達成に向けた研究項目の設定

国プロでの研究開発目標の達成に向けた研究項目・課題を設定し、その課題の解決方法・実施方法を記入してください（連携体やアドバイザー（予定含む）がいる場合は、役割分担（誰が担当するのか）についても記入してください。項目が複数ある場合はコピーして記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 研究項目１ |  |
| 研究内容  （課題と解決方法） |  |

・研究項目1-1

・実施方法

・担当機関

・研究項目1-2

・○○・・・

※記載例

|  |  |
| --- | --- |
| 研究項目１ | 高温高圧に耐える素材の選定 |
| 研究内容  （課題と解決方法） | 現在の素材では、110℃を超えると溶解・蒸発してしまうため、最終製品の基準を満たしていない。そこで、新たな素材（インコネル（ニッケル合金）や炭素繊維複合材料等）を開発し、要件を満たす材料を選定する。 |

・研究項目1-1　　材料の選定と試作

・実施方法　　　　いくつかの材料候補を選定し、３Dプリンターで造形し・・・

・担当機関　　　　▲株式会社　と　（未）■株式会社

・研究項目1-2　　材料の評価

・実施方法　　　　高温高圧下での○○試験を行い、材料を評価する。具体的に

　　　　　　　　　は・・・・・

・担当機関　　　　石川県工業試験場

※「研究項目」とは「国プロ」で実施予定の研究項目であり、「国プロF/S事業」での「予備試験」等の内容を記入する必要はありません。

※「国プロF/S事業」申請時に、連携体やアドバイザーとして承諾を得ていない場合でも、「国プロF/S事業」で連携体組成に関する取り組みを行う場合は、例のように、機関名の先頭に（未）を付けて記入してください。

３ 　研究開発スケジュール及び実施体制図

３（１）研究開発スケジュール

「２（４）研究開発目標達成に向けた研究項目の設定」に記入した国プロでの研究項目の内容について、その項目ごとに研究実施スケジュールを記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月  研究項目 | 令和8年  〇月 | 令和8年  〇月 | 令和9年  〇月 | 令和9年  〇月 | 令和10年  〇月 |  |
| 研究項目1-1  〇〇の確立 |  |  |  |  |  |  |
| 研究項目1-2  〇〇の選定 |  |  |  |  |  |  |
| 研究項目2-1  〇〇の検証 |  |  |  |  |  |  |

※項目が足りない場合は適宜追加してください。

３（２）実施体制図

　　国プロ実施中に想定している研究開発の実施体制について、各機関の具体的な役割が分かるように図示してください。(別紙5事業予算と対応させてください。)

　　「国プロF/S事業」申請時には連携しておらず、「国プロF/S事業」を活用して連携する予定の機関については、先頭に「（未）」と記入してください。

|  |
| --- |
| （例示）    　　　　　　アドバイザー（市場ニーズの提供）    　　　　　　　　　 　 市場ニーズの提供・製品評価  　　　　　　　　　　　　　　　　共同研究  　　　　　代表者（〇〇株式会社）　　　　　　　　　　　大学・公設試験場等  　　　（試作品の設計・製作、製品化）　　　　　　　　　　（評価試験の実施）  　　　共同研究　　　　　　　　　　共同研究    　　　　　連携体企業Ａ　　　　　　　（未）連携企業Ｂ（製品の軽量化・小型化）  　　　　（試作部材の成形の担当） |

４　研究開発の事業化計画

４（１）研究開発成果に係る製品等の概要

国プロ終了後を想定した研究開発成果に係る製品等の名称、概要（特徴、事業者、用途等）、新規性・革新性等を、製品等ごとに記入してください。

※以下のような内容を、数値等も用いて具体的に記入してください。

・製品等の名称

・製品等の想定されるユーザー

・機能・規格・特徴など

・知財戦略

・製品等が想定する市場規模・市場占有率

・販売戦略、販売体制（開発事業者、販売事業者名、販売方法等）

　　※加えて、「２（１）国プロに申請予定の事業と国プロ選定理由・成果の概要」で記載した「新規性（新しい価値の創出等）・革新性（ビジネス変革等）」について、事業化の観点でより掘り下げて記入してください。

４（２）事業化スケジュール (国プロ終了時（●年●月頃）からの予定)

　　※国プロ終了時の予定を記入してください　↑

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スケジュール | 事業年度 | 令和 年度 |  |  |  |  |
| サンプルの出荷・評価 |  |  |  |  |  |
| 追加研究 |  |  |  |  |  |
| 設備投資 |  |  |  |  |  |
| 製品等の生産 |  |  |  |  |  |
| 製品等の販売 |  |  |  |  |  |
| 売　上　見　込 | 売上高（千円） |  |  |  | \*,\*\*\* | \*\*,\*\*\* |
| 販売数量 |  |  |  | \*\*台 | \*\*\*台 |
| 売上高の根拠 |  | | | | |

※製品等が複数ある場合は、製品等ごとに記入してください

５　地域産業への貢献

地域産業の発展（雇用面・地域サプライチェーン・人材育成等）に資する計画であるかについて記入してください。

６　専門用語等の解説

専門用語・略語等についてそれぞれ簡潔に解説してください（異業種や他分野が専門の方にも分かるように記載してください）。

|  |  |
| --- | --- |
| 専門用語・略語 | 解説 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

※適宜、行を追加・削除してください